

府中市における少年非行

御 船 司 郎

府中市は、昭和二十九年四月一日、北多摩郡府中町、多磨村、西府村の一町二村を合併して、市制を施行した。古くは、国府が置かれ、現在の国分寺市との境に国分寺が建立されて、武蔵国の中心地として栄えていた。また現在も府中市内には関東地域の総社（各神社の祭神を集めて祭った神社）としての大国魂神社が鎮座しており、府中市のもつ歴史の古さを表わしている。加えて府中市内には、甲州街道、鎌倉街道という二つの街道が通っており、これらの街道に接した古い民家にはへいがなく、宿場町としての特徴を表わしている。このような土地柄は現在も引きつがれているということができ、反面、府中市には大国魂神社を中心とする氏子集団的な、『土着性』も見ることができ、比較的、複雑な根底意識が府中っ子と呼ばれる人々に作用している土地柄でもある。現在の府中市を見てみるならば、昭和三十年代の東京大発展期に、そのベッド・タウンとなり、三多摩各市の中でも、八王子市、立川市などの中央線沿線の市とならんで、爆発的な人口増加を見ることができ、十年後の昭和三十一年の府中市統計書を見ると、市制施行時の昭和二十九年の人口が、四九、七二〇人であり、十年後の昭和三十一年の人口が、一〇五、五二八人であることを考えてみれば、この十年間の人口増加は、巨大都市東京のベッド・タウンとしての役割を果たしていることを明白に示すものである。ちなみに現在の府中市の人口は、昭和四十九年一月一日現在、一七二、九一二二人であり、面積が二九、六キロメートルであるから、人口密度は、一平方キロメートル当り、五、七九〇人である。

また、府中市は、工場誘致（現在は、工場誘致はしていない）とともに、産業構造にも大きな変革をもたらした。従来、府中市は、農業あるいは、多摩川による漁業のさかんな所であったが、現在では、漁業は絶滅し、農

業も專業農家のばあゝ、府中市の総世帯数六〇、六八二戸に對して、八二〇戸を數えるにすぎない。工場について考へて見れば、府中市に所在する工場は、三三三件あり、その中でも、きわめて大規模な工場だけでも四件を數えることができる。

このように、府中市の人口構造は、古くからの住民、ベッド、タウンとしての府中に居住する住民、工業地としての府中に居住する住民といったように、さまざまな性格をもつた複雑な種類の住民によつて構成されており、特異な性格をもつた地方都市であると言ふことができる。

府中市内の特殊な施設について

府中市内に所在する、特殊な施設としては、府中刑務所、東京競馬場、多摩川競艇場、多摩靈園、大國魂神社、現在は移転されたが施設として残っている駐留米國空軍極東司令部がある。

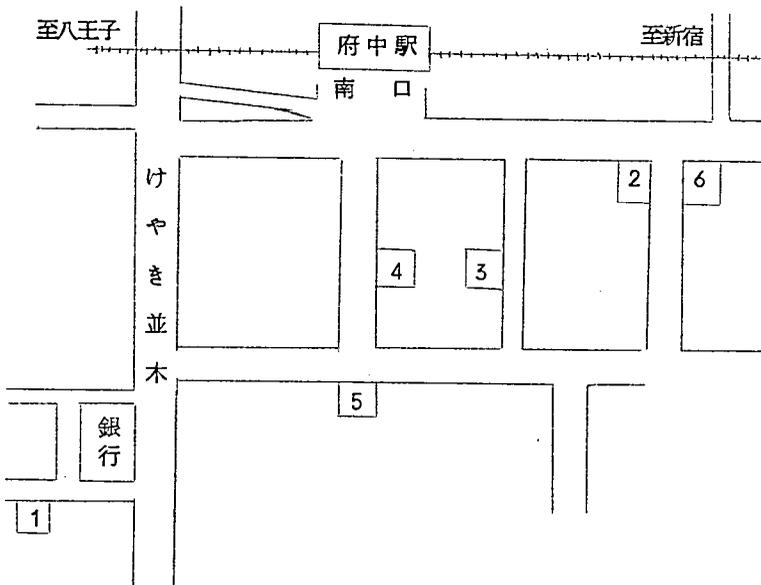
この施設を見ただけでも理解できるように、府中市には、多數のギャンブル客が出入りするという、特殊な面をもっている、これにともないギャンブル客目当ての飲食店が當然発達している。

また基地のあつた、京王線東府中駅周辺には、歓樂街としての一角が存在している。このような性質をもつ歓樂街では、当然のことながら売春等の悪質な行為が行なわれていたのは、衆知の事實である。米軍が府中市を離れた現在、民間人を対象とした行為が発生する可能性を多分に含んでいると言へるであらう。

そして、多摩靈園、大國魂神社、東京競馬場、施設とは異なるが、多摩川などは夜間、車を利用した、不純異性交遊の場とされている。

また近頃、再び注目を集めている、狂走族の集合地としては、福祉会館・東京競馬場・府中市立交通遊園・関戸橋周辺を上げることができる、これら地域は、狂走族が特別法違反のみならず、不純異性交遊の問題、暴力等の問題をも内包しているために、注目すべき地域であらう。

図 1 府中駅南口周辺地図



なお、府中警察署少年係の上げる、喫茶店等のワースト六は、図1のように、府中駅周辺に集中している。

以上のように、府中市内に所在する、特殊な施設は数多くの問題を含んでいると言えるであろう。

府中市における非行地

府中市における少年犯罪、および補導少年の非行地は、府中市の繁華街である、京王府中駅から、大國魂神社の周辺にいたる地区に、そのほとんどが集中している。

この地区は、いわば、府中市の中心街であるとともに、映画館・飲食店・遊戯場などが密集しており、加えて、戦前からの商店街であり、戦争直後の無秩序な発達もあり、非常に乱雑な雰囲気をもった地域である。また交通の便もよいため、府中市内、市外をとわず、少年そして成人者も多く出入りする地帯である。

このような地帯に、非行が多く発生することは、ある意味では当然ではあるが、しかしながら事の重要さが、反省されなければならないであろう。

府中市の非行少年の居住地域

府中警察署少年係の資料によれば、非行および、補導

少年等の居住地は、中心街にやや集中はしているが、全般的には、市の全域にかなりむらなく分布している。中心街は人口密度も高いので、非行少年の居住割合も、いくぶん高いのは当然である。しかし、その他の地域の分布も決して少なくない。これを非行地と考え合せてみた場合に、事態は明らかになる。

府中市の場合、非行少年や犯罪少年は、市内のいたるところに住んでいるわけである。ということは、府中市の青少年は、誰でも、その居住地域にかかわらず、ちょっとしたきっかけで、犯罪少年や非行少年になる可能性をもっているということを意味している。そして、彼等の大部分は、府中市の盛り場に出てきて、非行を犯し、また都内などへ出かけて、より進んだ非行を実行しているのである。

居住分布について考えてみたとき、次のようなことがいえよう。

府中市を含めて、わが国の場合、アメリカなどと異なり、居住地域の区分が明確でなく、さまざまな異質のひとびとが入り組んで生活を営んでいるため、居住地域のいかんは、非行化の有無とあまり関係がないのであろう。府中市の特性のひとつとして、府中市には、大都市にみられるような、不良住宅が、はっきりとした形では存在しないことが指摘できる。要するに、府中市の場合、少年非行の予防という観点からも、最も問題となる地域は、直接には、市の中心街であり、ついで、いくつかの望ましくない地点である。そして間接的には、府中市のいたるところが、非行性の形成基盤として問題とされることが指摘できる。

以上府中市の特性などについて、述べてきたが次に、府中市の非行少年の特徴的なことについて簡略に述べておきたい。

犯罪少年（刑法犯）についてみると、年齢的には十五から十六歳のもの占める割合が高く、かなりの遠隔地からの本人あるいは両親随伴の転入者が半数を占めており、府中市の土着者は三分の一程度である。半数は学生であって、とくに中学生が多い。八十五パーセントは両親と同居しており、それ以外のものも、一応は大人の監督下に入っている。家族数の平均は五人ぐらいで、多子家族のものも多い。核家族に所属する者が八十五パーセント

を越しているが、欠損家庭の率もかなり高いと思われる。親の職業階層はブルーカラー五に対して、ホワイトカラー二ぐらいの割合である。

要するに、府中市の非行少年の場合、両親が近県または遠隔地から転入してき、主としてブルーカラー職業に従事し、子供も多いような家庭であるときに、非行性が中学段階から発現しているといつてよいだろう。

触法少年の場合も、非行少年とほぼ似た型をとっているが、非行少年と比べて当然年齢が低い。男子が多く、両親と同居している者、核家族であるもの、ブルーカラー層のもの割合も高い、欠損率は、非行少年よりも低いようである。これは、少年群の年齢が低いためであると思われる。

補導少年は数も多く、非行少年とはやや異質である。すなわち年齢的には、年長者の占める割合が高く、したがって勤労少年、無職少年、高校生なども多く含まれている。

結論と今後の課題

府中市の場合、少年の非行率は、三多摩各市の中でもかなり高く、犯罪少年の居住率は三多摩中第一位の位置にある。

これらのことを考えてみたとき、次のようなことが言える。

府中駅前商店街、大國魂神社、競馬場、競艇場等の、流出・流入の人の動きが激しい府中の地域構造が青少年の非行に反映していると思われる。また、青少年の盛り場との接触頻度の高さをあげることができる。

以上のようなことが、結論の主なものとして上げることができるが、今後の課題といった問題を考えるならば、次のようなことが言えよう。

府中市内から、ギャンブル施設をなくし、府中市全体がもっている歓乐的都市のイメージをなくすこと。

府中駅南口周辺が、青少年に与える影響を考えて、現在の商店街の密集地域を整然とした、駅前商店街に再開

発すること。少なくとも、純粹な商店と飲酒店との完全な分離をすべきこと。

喫茶店などの少年の集中しやすい、場所の経営者などに再教育を施すこと。

現在、府中駅前には交番が皆無なので、設置すべきこと。

以上のことによつて、少年非行の発生率は低下すると思われる。結局、すべての元凶は、ギャンブルにあると思われる。これから府中市が健全に発展するためには、少々の犠牲があつても、ギャンブル追放の立場に立たなければならぬ。